肩腱板断裂患者の夜間牽引の苦痛に関する調査報告

The report on the displeasure in shoulders placed in traction at night after surgery

東３階病棟：浦野美智子　鈴木由美　谷川真知子　中井美華
滝澤信子　内村実希　宮島美保　北島加奈子
鰐川洋子　永田賢子　二木朗江

《要　旨》

肩腱板断裂患者の手術後の夜間牽引による苦痛についてアンケート調査を行なった。苦痛を感じていることは、拘束感、装具の音、看護師を呼ぶこと等であった。これらの結果を男女別、装具別、手術をした肩別について、それぞれ２群に差があるかどうかを検定した。男女別では起き上がりにくさ、枕を使用できないこと、装具別では装具を剥がす時の音、手術をした肩別では起き上がりにくさに有意差が見られた。こうした患者が感じている苦痛を理解し、今後も術前からの練習や指導、術後装具を剥がす時の配慮が必要と考える。

《キーワード》

肩腱板断裂、外転装具、上肢スピードトラック牽引

１．はじめに

当病棟では肩腱板断裂患者の手術を年間４０～５０例行っている。肩腱板断裂の患者は術後外転装具や外転枕（写真１）を装着され、毎日肩の拘縮予防のためのリハビリに励まれている。当院では夜間に患肢のスピードトラック牽引（写真2）を行っている。このように夜間牽引をする病院は少なく、当院を含め全国で３カ所だけである。患者は日頃から夜間牽引のつらさを訴えているため、私達はどのようなことに苦痛を感じているのかを調査し今後の看護に役立てたいと考えこの研究に取り組んだ。

２．研究方法

１）研究期間：２００３年　10～12 月

２）研究対象：術後２週間経過後の患者 12 名（回収率 100%）男性８名　女性４名
平均年齢 58.3 歳

３）方法：夜間牽引時に不自由・不快に感じることの内容、周囲や看護師に対する気兼ねなどについて質問用紙を作成し、アンケート調査を行った（表１）。評価基準は、全く感じなかったを１点、とても感じたを４点として、4 段階評定法を用い、平均点を算出した（表２）。その結果を男女別の２群・装具別（外転装具・外転枕）の２群・手術をした肩別（利き腕を手術したか、そうでないか）の２群に差があるかどうかの検定を行なった。検定には、統計ソフトＹＳＴＡＴ２０００を用いＴ検定を行なった。また、鎮痛剤・睡眠安定剤の使用の有無、夜間平均トイレ回数・平均睡眠時間・平均牽引時間などについての調査を行った。

表1　アンケート内容

1．手術をされた肩は（　右・左　）、きき腕は（　右・左　）。

利き腕を手術された方は、手術前に逆手での練習をしましたか。（はい・いいえ）

術翌日から使用していたのは？（外転装具・青色の外転枕）

睡眠安定剤を内服されていましたか？（はい・いいえ）

鎮痛剤を内服されていましたか？（はい・いいえ）

夜間トイレに平均何回いかれますか？（　　回）

牽引時の平均睡眠時間は？（　　時間）

平均牽引時間は？（　　時間）

牽引はどのくらいで慣れましたか？（　　日・慣れることが出来なかった）

夜間牽引によるかぶれや水泡ができましたか？（はい・いいえ）

牽引の包帯の巻き方は？

（強すぎる・どちらでもない・弱すぎる）

	全く感じなかった	あまり感じなかった	まあまあ感じた	とても感じた
2．夜間牽引のことについてお伺いします。	1	2	3	4
（1）拘束されている感じがありましたか？				
（2）ﾄｲﾚなど起き上がる時に不自由を感じましたか？ また、どのように起き上がっていましたか？ （柵を利用した・反動をつけた・その他　　）				
（3）頭に枕が出来ない事に不自由を感じましたか？				
（4）牽引されている時に飲み物が飲みにくいことに不自由を感じましたか？				
（5）牽引の着脱時に看護師を呼ぶことに遠慮されましたか？				
（6）夜眠れずに気分の不快を感じましたか？ また、眠れずに翌日に疲れが残ることがありましたか？（はい・いいえ）				
（7）痛みを強く感じましたか？				
（8）手術した腕が痺れを感じましたか？				
（9）牽引されている腕が寒いと感じましたか？				
（10）看護師により巻き方が違う事で不快を感じましたか？ その理由をお書き下さい。 （　　）				
（11）夜間装具や枕のマジックﾃｰﾌﾟをはがす音で周囲に気を使いましたか？				

表２　群別の平均点

	男	女		外転装具	外転枕		右	左	
拘束感	3	2.8		2.7	3.3		2.8	3	
起き上がりの不自由さ	2.2	3	*	2.3	3	*	3	1.7	*
枕が出来ない事の不自由さ	3.2	1.5	*	2.8	2.5		2.5	3	
飲水のしにくさ	2	2		2	2		2.2	1.8	
看護師を呼ぶことに対する遠慮感	2.9	2.5		2.4	3.3		2.6	3	
不眠による気分の不快さ	2.4	2		2.3	2.3		2.1	2.5	
痛みの程度	2	3		2	2.5		2.4	2	
痺れの程度	1.7	1.8		1.7	1.8		2.7	1.8	
腕の寒さの感じ方	1.8	2.3		1.9	2.7		2.3	1.5	
巻き方の相違による不快感	1.8	1.3		1.7	1.3		1.6	1.7	
マジックテープをはがす音で周囲への気遣い	2.9	2.8		2.4	3.5	*	2.9	2.8	

＊Ｐ＜0.05

３．結果

平均牽引時間 8.3 時間・鎮痛剤使用８名・睡眠安定剤使用６名・夜間平均トイレ回数 1.5 回・平均睡眠時間 5.9 時間であった。全体的に見ると図１のような結果であった。患者は牽引による拘束感、装具のマジックテープを剥がす音での周囲への気遣い、看護師を呼ぶ事への遠慮、枕ができないことの不自由さ、起き上がり難さなどに苦痛を感じていた。この結果について前記した２群間の差を検定した。男女別では、女性の方がトイレ等に起き上がる時に有意に不自由を感じており、男性の方が頭に枕ができないことに有意に不自由を感じていた（図２・Ｐ＜0.05)。装具別では、外転枕使用患者の方がトイレ等に起き上がる時に有意に不自由を感じており、マジックテープを剥がす音で周囲に気を使う傾向にあった（図３・Ｐ＜0.05)。手術をした肩別では、利き腕を手術した患者の方が起き上がる時に有意に不自由を感じていた（図４・Ｐ＜0.05)。

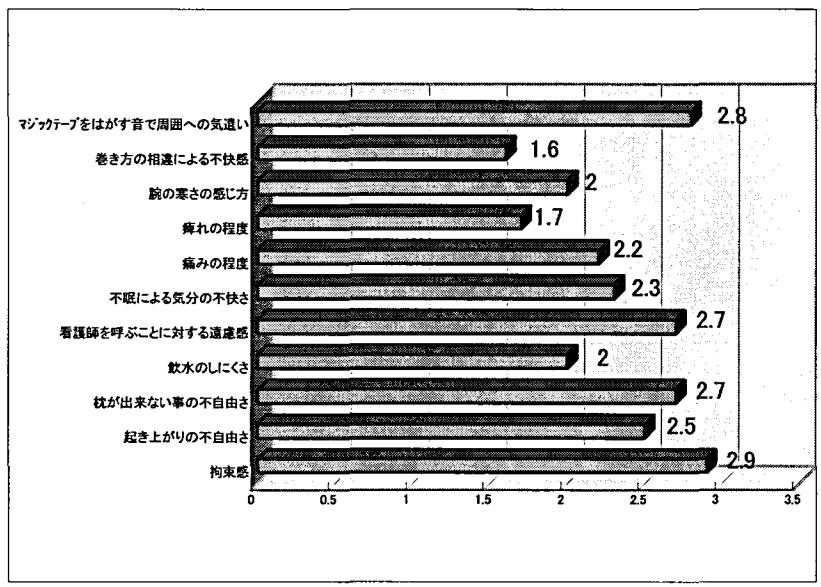


図１　全体の平均点

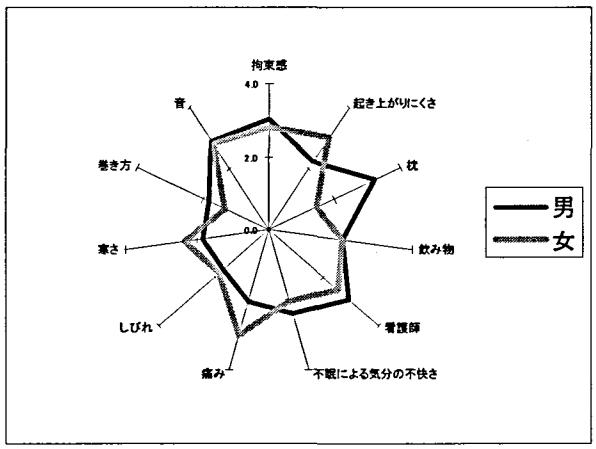


図２　男女別

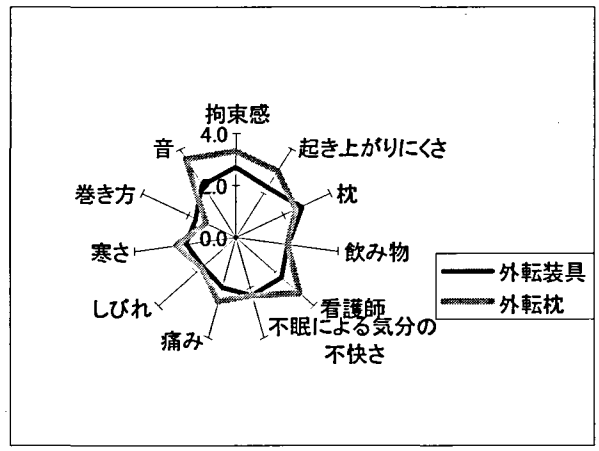


図３　装具別

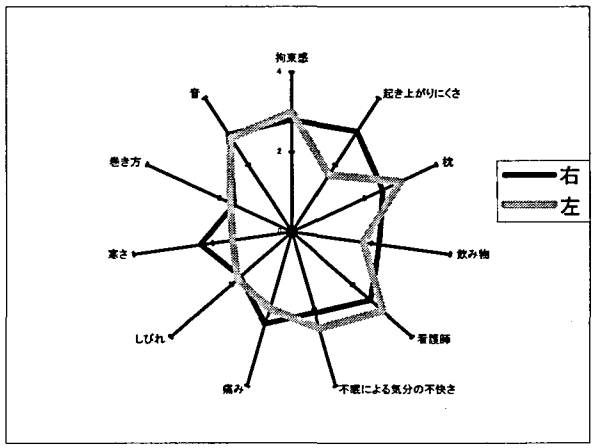


図４　手術をした肩別

４．考察

痛みや、不眠に対しては比較的点数が低く、鎮痛剤や睡眠安定剤の使用により対処できていると思われる。女性の方が起きあがりにくさを感じているのは、一般的に女性は身体が小さく筋力も男性より弱い傾向にあるためではないかと思われる。利き腕が使用できないという事は起き上がるときや食事など ADL に不自由をきたす。そのため術前から起き上がり方などの練習や指導が必要と思われる。また、男性の方が頭に枕が出来ないことに不自由を感じていた。このことで男女差がでたことは不明だが、普段の習慣が影響しているのではないかと考える。装具（特に外転枕）はマジックテープを剥がす音が大きいため周囲へ気を使う傾向にあり、今後は肩腱板断裂患者同志が同室になるような配慮も必要であると思われる。また、夜間、看護師を呼ぶ事に遠慮を感じている患者も多く、日頃患者に接するときの態度にも配慮していく必要があると思われる。

５．おわりに

今回の研究で、夜間牽引を行なう事により、拘束感や、周囲の患者への気遣い、看護師への遠慮、起き上がり難さに苦痛を感じている実態が明らかになった。今後も、患者の苦痛を理解し少しでも苦痛が軽減できるように努力していきたい。

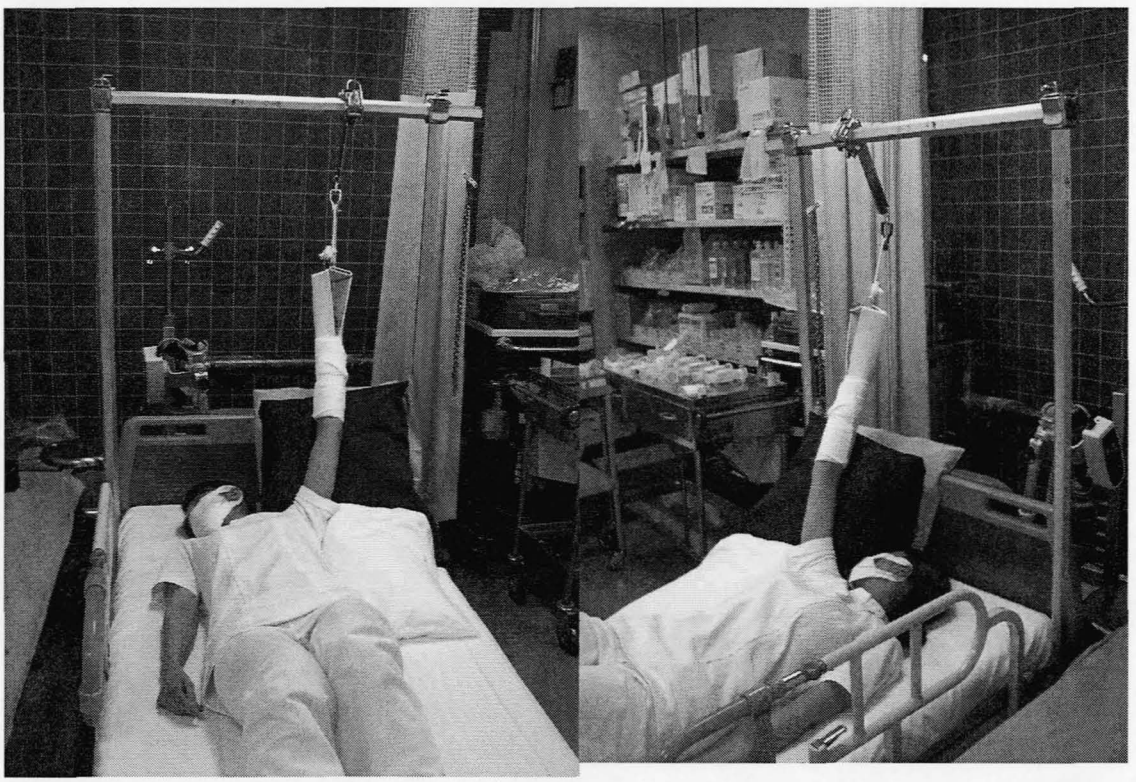
６．謝辞

本研究をまとめるにあたり、御指導、御協力いただきました当院整形外科の畑幸彦先生に感謝いたします。

《参考文献》

・信原克哉：肩ーその機能と臨床ー、第２版、159～179 頁、医学書院、1995 年
・高尾淑子他：肩腱板修復術後リハビリテーションと退院１年後の日常生活動作、整形外科看護、第８巻８号、65～71 頁、2003 年

外転枕と外転装具（写真１）



夜間牽引時の様子（写真２）